

IV - 40

インターネットを活用した「道の駅」の情報提供について

建設省 東北地方建設局 福島工事事務所

○ 千田 洋一

土木学会正会員 越智 繁雄

1 はじめに

道沿情報と地域情報を道の駅で複合的・一体的に発信し、他の拠点との情報ネットワーク化を図ることなどを目的とした「ふるさと交流拠点事業」が建設省と農林水産省の連携施策として創設された。この施策の指定を受けると、市町村は農林水産省の補助金を受けて地域情報システムを整備する。同時に、道沿管理者は同一端末上で道沿情報を提供するためのシステムを整備する。

一般国道4号の道の駅「安達」では、平成8年度に「ふるさと交流拠点事業」の指定を受け、地元安達町と建設省福島工事事務所が共同で、インターネットを活用した情報提供システムを整備した。その特徴を以下に示すとともに、今後の「道の駅」における情報提供のあり方について考察する。

2 道の駅「安達」の情報提供機能

道の駅「安達」は、日交通量約3万台を有する一般国道4号沿いに位置しており、道の駅の共通コンセプトである「休憩」「情報交流」「地域連携」という機能を実現する上で大きなポテンシャルを持っている。そうしたことから、この道の駅の基本コンセプトを「交流ステーションの創出」と定め、特に地域連携の観点から、「県北の交流核」と位置づけた。

(1) 情報休憩ロビーの整備基本方針

情報休憩ロビーは、道の駅の「コンコース」的空間として施設の導線上の中心に位置し、道の駅の基本的なサービスを集約した空間である。この空間では「道の駅のニュースタンド」を実現させるために「休憩」「情報交流」「地域連携」という視点からさまざまな機能を配置した。情報休憩ロビーの整備基本方針を以下に示す。

- ・道の駅の基本的なサービスが集約された空間とする。
- ・施設全体の有機的な関連を踏まえた施設画とする。
- ・狭い意味の「情報提供」だけでなく、さまざまな出会いの生まれる交流施設とする。
- ・誰もがゆったりとくつろげる休憩のための空間であることを重視する。
- ・一体的な交流空間として「広場」の機能を重視する。

(2) 情報の枠組みと基本的な考え方

◆道沿情報

交通特生は長トリップが多く、道沿情報の提供は広いエリアをカバーすることが望ましい。また、並行する東北自動車道の情報も重要である。こうしたニーズに対応するため、他の道沿管理者が所管している道沿情報を連結して提供することを主眼とした道沿情報提供システムの整備をめざした。

◆地域情報

通常、観光情報の提供が傾く道の駅が多いが、ここは観光利用が比較的少なく、産業的・生活的な日常利用が多い。そこで、地域情報としては生活情報を重視した。生活情報とは、地域のローカルニュース、市民レベルの情報発信（不用品交換、仲間募集、捜し物情報、市民活動の成果発表等）、公共施設の情報（公民館等の利用状況、催し物情報等）などをいう。

(3) 地域情報のキーワード

道の駅における地域情報とは、その道の駅の固生そのものである。道の駅「安達」では、地域情報のキーワードを「旬の情報」「人肌情報」と設定した。

すでにデータベース化された固定的な情報は、様々なかたちで入手可能である。また、観光客に限らず道の

